

平成 17 年度 公開プレゼンテーション参加団体アンケートのまとめ
（協働パイロット事業委託）

H17.8.1 市民生活課

本アンケートは、平成 17 年度協働パイロット事業に応募した団体を対象に行ないました。

対象団体数 14 団体 / アンケート依頼団体数 14 団体 / 回収数 12 団体

問1. 募集時期・期間は適切だったと思いますか？

説明会を3月初、4月末の2回に分けて静岡、清水の2箇所ずつで実施。募集期間は5/6～5/31。

| | |
|------------------------|----|
| 適切だった | 10 |
| もっと準備期間が欲しかった | 2 |
| 準備期間はもっと短い方が良かった | 0 |
| その他 | 0 |

理由・意見等

自分たちの活動計画と照らし合わせて検討できるので良い時期だと思う。/ 本来活動をしながらの準備なので、これくらいの準備期間は妥当です。/ 予算執行という点から5月末になったかと思うが、県の応募事業などと時期が重なってしまうので日程的にもう少し余裕があったほうが良かった / 小中学校対象の事業では7月～12月という実施期間は学校のスケジュールにあわせにくい。前年度末までに採択し4月からは即活動体勢に入れるよう希望

市民生活課のコメント

期間設定は、おおむね適正だったものと思われる。他の事業募集の際には、総会や繁忙期などの時期設定に留意する必要がある。

問2. 募集にかかるPR方法は適切だったと思いますか？ 情報誌パートナー1面に記事として掲載し説明会の約一ヶ月前に市内400市民活動団体に郵送。及び市広報紙、HPに掲載

| | |
|-----------------------|---|
| 適切だった | 8 |
| 新聞等でもっと広く募集すべきだ | 3 |
| その他 | 1 |

理由・意見等

予算の問題がありますが、市民に直接かかわる活動指針として、その姿勢をアピールしてもよいのではないのでしょうか / マスコミのパブリシティも希薄に感じます / NPOの方から情報を取りに行く姿勢も必要なので適切なPR方法でした / 郵送資料として知りましたし、市の広報にも載りましたので、関係する活動をしている人ならば情報を知る事は可能だと考えます / 意欲的な団体への働きかけで充分だと思います / 自由部門というのは適切のように思えます / 市民活動を行っている方、情報の欲しい方には十分に伝わっていると思います / 今後の方向性によっては、新聞やメディアに継続的に見守っていただけると良いように思います / 市民団体の構想には秀逸でも人知れず埋もれたアイデアもあると思う / PR方法もNHK等タダのものもありPR方法を駆使すべきでは？

市民生活課のコメント

応募の対象団体へのPR方法はおおむね適切だったと思われる。広く市民へのPR方法を考える必要がある。

問3. 応募資格は適切だったと思いますか？

| | |
|----------------------------------------|---|
| 市内の特定非営利活動法人および構成員 10 名以上・活動歴 1 年以上の団体 | |
| ..適切だった | 8 |
| ..NPO法人に限定すべきだ | 1 |
| ..企業や個人も参加できるようにすべきだ | 2 |
| ..その他 | 1 |

理由・意見等

提案を実現する意欲と能力があることが重要であるので、今回の資格でよいのではないのでしょうか / 市民団体が力をつけていくチャンスが与えられるから適切だと思う / 市民活動との協働という視点であれば、10 人以上のメンバーがいる会である事はそれほど高いハードルではないと思うから適切だと思うが企業や個人が提案するのも良いと思う / 市が何を協働したいかによって呼びかけ団体を選定すれば良いと考えます / 提案企画の審査に一定の基準があれば、学生さんやグループ活動を含めて応募対象を広めた方が市民活動への関心が高まると思われます / 出来るだけ限定した方が一つの明確な選抜基準になると思う / 優れたアイデアが個人の発想ゆえにボツ！も想定され最低の参加資格は「市民であること」でもよいのでは

市民生活課のコメント

応募資格はおおむね適切だったと思われる。昨年度と比較して、構成員 5 人 10 人、活動歴を問わない 1 年以上とハードルを高くしたが、協働事業を行なう上で大切な行政との対等性を保つために、その前提条件として、組織としてのマネジメントが一定程度確立されている必要があったからである。グループ、団体等の立ち上げ支援も当該の重要な任務だと考えているが、当パイロット事業は、もっと別のところに狙いがあることを理解されたい。

問4. 募集要項及び企画提案書書式等はわかりやすかったと思いますか？

| | |
|---------------------|---|
| わかりやすかった | 9 |
| わかりにくいところがあった | 3 |

理由・意見等

成果目標は「示しにくい」 / 様式 2 「協働にあたって・・・」の項目ですが企画実施にあたって「協働の場で行政に望むこと」なのか、あるいは、ただ「行政に望むこと」なのか、誤解のない表現にすべき / 説明会を聞かないと「協働」の意味がわからない / どこの団体も審査員から同じような質問をされていたように感じたので、質問時間の短縮のためにも、提案書に書き込む内容としてあらかじめ入れておいても良いのでは / 「当該団体が既に実施している事業は対象になりません」という但し書きがあるにもかかわらず、内容的には既に実施している内容をそのまま、または若干変更（前年開催した事業を少し変更、または場所を変えて開催など）で応募している事業がいくつかあったのではないかと / 庶民感覚では専門知識がなくても思い・理想を単刀直入に表したいところ。書式中の設問は行政の視点からは平易かもしれないが庶民には判然としない不慣れな内容で何をどう表せばよいものか苦慮した部分がありました。

市民生活課のコメント

募集要項等については、おおむね適正だったと思われる。ご指摘の点については、表現方法を工夫していきたい。また、審査員の質問を想定した内容をご記入いただけるように努めてはいるが、提案資料の事前読み込みや当日の流れを踏まえて審査員が主体的に質問を考えるため、事前想定が難しい事情をご理解いただきたい。

| | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 問5 . 委託金額の設定は適切だったと思いますか？ | 自由(50万円以内)・課題(50万円以内) |
| 適切だった | 3 |
| 安すぎる..... | 2 |
| 高すぎる..... | 1 |
| もっと自由な金額設定ができるようにすべきだ | 5 |
| その他 | 2 |

理由・意見等

一定の枠づけとして考えれば適切 / 設定予算を高くしても企画内容が良くなるとはいえない / 予算を組んでみると資金は足りない / できれば1年間活動できる予算が欲しい / 競争入札ではなく内容評価なので、もう少し自由な設定もあってよかった / 例えば20万と30万で出来る事業があれば二つの事業を選定する / 自由競争方式とでも言える位、各申請団体の企画力を生かすパイロット事業でも良かったのではないかと / 課題部門と自由部門と分けずに募集 / 応募枠が2つというのは企画提案力が生かされない / 単年度型ではなく継続型のパイロット事業があっても良い / もう少し採用枠を増やしてほしい / 今回提出した企画が生かされる「敗者復活戦」もあるとよい / 民間のノウハウで最小の費用で最大の効果が望めるなら、はじめに金額で枠を設けるよりも、期待される成果を生むためにも適正な金額を算定したらいかがでしょう！

市民生活課のコメント

予算以上の事業をやることはできないため、上限は外せない。実績・成果等を踏まえて応募枠の拡大に努めたい。金額を定めない提案制度については、協働市場（提案を受け採用する場合は翌年度以降に予算化）をご活用いただきたい。また、一部の事業については、関係所管課からの要望があり所管課の予算で実施に向けて検討が始まっている。

問6 . 公開プレゼンテーション当日の進め方は適切だったと思いますか？

| | |
|--------------------------------|---|
| 持ち時間: プレゼン 5分・質疑応答 8分・準備片付け 7分 | |
| 適切だった | 6 |
| 時間が足りなかった..... | 4 |
| その他 | 1 |

理由・意見等

応募数が多ければ2日間に分ける位のゆとりが欲しい / 順番での待ち時間が大変 / 今回の進め方は「セレモニー色」が濃く流されている感じです / 5分・8分は逆の設定で考える方が正しいのでは？ / 丁寧な質疑を受け参加してよかったと思った / 簡略に説明できないなら提案力を養ってから臨めばよいと思う / やる気や独自性のPRには「プレゼン5分」は極端に少なく10分はほしい / 準備等は3分でもよいのでは？ / 本音では発表に10分は欲しいが質疑応答の中で補足できるので全体で15分は適切 / プレゼンでの評価というよりも企画内容である程度結果が出てしまったような感じがあった / 審査員は先に企画書を読んで質問を決めておけるが、質問を受ける側としては1分では説明しきれない / 質疑はお互い納得いくまでやって欲しい / 当日の説明資料をプレゼン終了後に見られた審査員もいたのが残念 / 市民活動を育てる点では公開プレゼンテーションは納得できますが、応募数からみると一次審査で絞ってもよいのではないかと / 採用数が3とか4なら別だが12分の1にするのにほぼ1日拘束されるのはキツイ / 審査員は素人ではなくそれぞれが専門家です。企画は内容が優れているほど、短時間でも明快地に審査員を納得させるのでは！

市民生活課のコメント

今回の時間設定は、審査員には好評だった。準備時間7分は、準備のための時間というより審査員が評価表を記入するための時間であり、長丁場のプレゼンでは必要な時間であることをご理解されたい。審査員や傍聴者の集中力や拘束時間、審査の公平性、プレゼンにかかる経費などを考慮すると1日で済むようにするのはやむを得ないと考える。審査の透明性に十分に注意を払いつつ、書類による一次審査を設けて絞り込む方法などを検討する必要がある。また、プレゼン技術の向上のための取組みが必要だと思われる。

問7. 審査方法は適切だったと思いますか？（はいいくつでも）

| | | | |
|--------------------------------------------------------------------|----------|----------|---|
| 書類が形式的に揃っているかどうかをみる事前審査 | 公開プロポーザル | 非公開審査委員会 | |
| 適切だった | | | 6 |
| 初めにアイデアだけをプレゼンする機会を設け委員や市民の意見を聴き、時間を置いて審査のためのプレゼンをする方法が良かった（浜松市方式） | | | 3 |
| 書類審査を厳密に行なった後に、プレゼンを行なう2段階選抜の方がよかった | | | 5 |
| 非公開の面接があるとよかった | | | 0 |
| プロポーザルは非公開の方がよかった | | | 1 |
| 審査委員会は公開の方がよかった | | | 1 |
| その他 | | | 1 |

理由・意見等

評価内容が後に公開されれば審査が非公開でよいのではないのでしょうか／他の団体の考え方、進め方が参考になった／応募が多ければ必然的に書類審査も必要になると思う／他団体の活動を知る機会となって良かった／一次審査である程度ふるいにかけた方が無駄がなく余計な期待感を抱かなくて済む／一次審査(書類審査)を非公開で行ないふるいにかける場合、担当課の判断を公正なものを受け取れなくなる可能性があるのでは今回の方法で良い／各区、数ヶ所の高校でプレゼンを行ない、勝ち抜きトーナメント制にしてみたいかがでしょうか？

市民生活課のコメント

提案書類については、事前に審査委員に配布し、審査委員相互の意見交換の場も設けた。プレゼンを見て評価の視点ごとに各委員が採点し、審査委員会で合計得点の上位団体を軸に審査した。また、行政の恣意性を排し競争の公平性を保つ観点から、事務局からは、提案書類以外の情報や意見を審査委員に事前に提供しないよう努めた。

問8. 評価の視点は適切だったと思いますか？

| | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| (1)市民ニーズや社会的課題の解決に資する事業、(2)協働にふさわしい事業、(3)先駆性・創造性、(4)実行性、(5)適正な予算見積り、(6)その他、市民活動の特性を生かせる事業 | |
| 適切だった | 10 |
| 適切ではなかった | 1 |

理由・意見等

丁寧に審査してもらったと理解できる項目でよかった。

市民生活課のコメント

出来る限り、広くアイデアを募るために曖昧な表現になったところがある。そのため、戸惑った応募団体もあるものと思うが、その分、知恵比べになったとも考えられる。

問9. 審査委員会の非公開は適切だったと思いますか？
審査

評価視点ごとに点数化し、別室・非公開で当日に

| | |
|-----------|----------|
| 適切だった | 10 |
| 公開の方がよかった | 2 |

理由・意見等

審査結果の点数化や委員名の公表など納得がいく方法だった／公開の場で忌憚のない意見を出すのは市民団体に配慮すれば出来なくなるので審査を萎縮したものにさせてしまうと思う／各団体は最善をつくして取り組んでいるので、今後のアドバイスの意味も含め、市はその熱意に応えるべき／開示される部分が多いほど市民の関心を引くと思う

市民生活課のコメント

概ね適切だったと考える。

問10．審査員の構成は適切だったと思いますか？（はいいくつでも）

市民委員(市外含む)3名、行政委員1名

| | |
|-----------------------------------|---|
| 適切だった | 6 |
| 法律や経済などの様々な立場の専門家を交えた方がよかった | 2 |
| 市外・県外から招いた方がよかった | 1 |
| 人数が適切でなかった | 2 |
| 一部または全部を公募した方がよかった | 0 |
| 行政関係者をもっと入れるべきだった | 2 |
| その他 | 2 |

理由・意見等

応募数が多くなり、より専門的な協働を提案する場合には委員にその分野の見識を有する人も必要になると思う／「協働」ならば2：2＝市民代表：行政 くらいの構成で良い／最低でも5－6人が望ましい／審査員が少ないと評決しにくく10人は必要と思う／企画に適する所管課職員の意見も必要／審査員は市外・県外から招いた方が良いかもしれませんが、それはもっと継続的、発展的に、この企画が成長した延長線上にある事のように思います／すべての内容を判断できる審査員ではなかったと思う／提案が多岐にわたっていて同じ評価基準で評価できる内容ではない／その分野を公平・専門的に判断できる審査員でないとなかなか無難な内容で決定してしまう傾向にあるのではないか／所管部署や専門家が一次審査を行なう方法もあると思う／男女比率もあるかと思うが、どちらかというと女性審査員の視点に偏りがみえたと思う／「個人的には子どもがいるので・・・」といった発言はあまり適当ではないのでは？／静岡市の状況(問題点)を知っている委員が好ましい／審査員のプロフィールがもう少し紹介されている方がよい／結果として子ども・環境に偏っていたような印象／環境とか福祉とか文化とか、分野別に募集するのもおもしろいと思う／法律や経済の枠を超えた自由な発想こそ市民活動に必要な視点だと思うので専門家はいらぬ

市民生活課のコメント

自由部門についてはテーマが幅広いため、比較評価が非常に困難であり、テーマを狭めて専門家の評価を得るといった提案が寄せられた。しかし、市としてはそのような困難さがあっても、間口が広いことで自由な提案が寄せられるという点を重視しているため、自由部門として継続していきたい。なお、関係所管課には企画提案書を配布して事前評価と意見を提出させ、事前に審査委員に渡した。最終審査の得点に直接に加算されないが、審査委員はそれらを参考に審査を行なった。

問11．審査結果の公表方法は適切だったと思いますか？

総合得点を公表(後に視点別得点も公表)

| | |
|-----------------------------|----|
| 適切だった | 10 |
| 順位をすべて公表して欲しかった | 0 |
| 総合得点をすべて公表して欲しかった | 2 |
| 評価視点毎の得点をすべて公表して欲しかった | 0 |
| その他 | 0 |

理由・意見等

行政も市民活動も情報公開が原則／参加した団体だけでなく一般市民がこの提案と審査を知る機会が得られるように公開されたのは良かった／企画のどの部分が評価されたのか具体的に知ることができたら、さらに企画に磨きをかけることもできると思う

市民生活課のコメント

昨年度は審査結果を公表しなかったが、今回は改善してよかったと思われる。

自由意見

当アンケートは無記名にした方がもっと本音を聞けるのではないのでしょうか。

来年度も同様の企画コンペがあるのでしたら、さらに質のレベルアップが図れるよう頑張ってください。私たち応募側も努力します。

私たちは、現在まで、行政や企業と協働する余裕や機会を持ってないまま、独自の活動をしてきましたが、市政への市民参加や地域で市民の果たす役割をもっと、市民自身が楽しんで担えるように願うならば、私たち自身ももう1歩進んで、協働事業に応募してみようと考えました。協働事業に選ばれませんでした。まず、私たち自身が思いを提案し、行政と市民へ表現できたことが楽しく、有意義な経験となりました。今回提案した活動を、どう市民だけで実現できるか・・また、仲間と一緒に考えたいと思います。楽しかったです。

市民側の参加姿勢はどうなのでしょう？ 公開プレゼンなのに、関係者以外は来ていないようでしたし、関心を持っている平均年齢が高いのも気になりました。自分の発表が終われば帰ってしまうのも残念に思いました。

NPOに事業を委託する際、NPOの質を上げる、市民の問題意識をもたせる等の事も考えに入れて欲しい。NPOの活動を広げる機会をもっと設けてもらいたい。

非常に勉強になりました。ありがとうございます。

当団体の提案としては「協働の必要性」も訴えたつもりだったが、こちらの提案力不足、アピール方法、もしくは理解されなかったのか、点数が相対的に低かったのは非常に残念だった。

今後NPOの地位向上（ボランティアではないということ）NPOで働く事に夢がもてるようにしていく為（労働条件、賃金等）にも今回の企画を更に検討していき、NPO、そこで働いている人・働こうとしている人のためになれるような活動を推進していきたい。

せっかく「協働」まちを住みよく、何か方法を見つけよう、と企画、提案しているのですが、行政側も市民側も思いの「温度差」があるように思いました。この「温度差」をうめていく時に、よい意味でも、悪い意味でも何らかの「妥協」が求められると思います。その内容を、より良い結果に結びつける為にも一部の市民との協働を模索するよりも、もう少し入口になるような展開ができれば良いように思いました。例えば今回の応募団体の中でA、B、C3つの団体に50万円託すのでB'の企画を行なってください。といったように、他の団体とのつながりが、新しい活動力を生むというような・・・双方の「関心」を高める方法を模索する必要があると考えました。